

第3回

武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議

日時：令和3年5月24日（月）

午後6時から午後7時30分まで

方法：オンライン会議

出席者：＜委員＞河邊委員、今福委員、加藤委員、平川委員、松井委員、

勝又子ども家庭部長、村松指導課長、

＜市・事務局＞吉田子ども育成課長、事務局2名

座長発言□、委員発言■、事務局発言○

開 会

【事務局より、配付資料について説明】

1. 「現状の課題と今後の論点について」の意見交換

□ これは幼児教育なので、主に3歳以上の子どもが対象のことですが、絶対的な安心感や自己肯定感、生まれてからずっとそのことが大事だということが押さえられていて、そして幼児教育、3歳以降のところでは、いわゆる小学校の準備教育ではなくて、日常生活の中で子どもが必要な価値を学んでいくということが大事であるということが押さえられています。今日は、「子どもにとってどんな生活が必要か」ということを膨らませるために、具体的なお提案があると伺っています。

○ 本日は協力園の先生方から、各園でどのように課題を認識されて、また、幼児教育の考え方をどのように持たれて、実践につなげているかをご紹介します。

【保育園について紹介】

■ 大人である私たちがすべきことは何なのか、というところを一番課題に感じています。また子どもの様々な可能性を發揮できるように環境づくりが大事というふうに思っています。保育園としては、形にはめられるものではないというふうに理解して、子どもたちの環境づくりということを一番のテーマにして考えていくものと思っています。ただ、それが今、保育園で実際のところはできていません。自分の思いと、それを共感してくれる人間がどれだけいるかというところにも課題があるのではないかと感じています。

□ 個々の子どもが自己を發揮できるような環境づくりが大切ということで、何を一番大事にして環境づくりを行っていますか。

■ 子どもが成長したときに私たちがしてきたことが、子どもたちが發揮できて社会に行けるかどうかというところを踏まえて、日頃の保育の中に、それを取り込めるようにしたいと思っています。

【認定こども園について説明】

■ 認定こども園なので、1号児と2号児と3号児がいますけれども、園に通う全ての子どもたちに一体的に保育、幼児教育を行うということを理念にしている、伸び伸びとした遊びを大事にしています。

子どもたちは遊びを中心に、人との関係や、安定や、それから自己発揮をしていけるよというところで、描画や造形活動、歌やリズムなど、活動を多く取り入れて、伸び伸びと自分なりにあるがままの自分を表現することを大切にしています。

職員については、園内研修やプロジェクトチームを立ち上げて、その中で子どもの育つ子どもの姿から、保育について学び合おうということをしています。

小学校の接続については、毎年2月に1年生と年長児が交流会をしています。これは学校のほうから声かけが毎年あって、近隣の保育園2園とこども園3園で日程調整をしながら、毎年訪問しています。

課題ですが、保育士と小学校教員が子どもの様子を互いに見る機会が少なく、連携や接続の目的を明確にし、その必要性を共有することが大事だと思います。

■ 園内研修プロジェクトチームの内容や頻度について教えてください。

■ 園内研修は、1部5人ぐらいのメンバーで、今年1年間でどんなことを勉強したいかを話し合うところから始まり、今年は若い先生たちが学びたいスキルアップのこと、童歌を学びたいとか、音楽に合わせて体を動かすような活動をやっています。回数は、今年はプロジェクトとしての計画は年間に6回くらいで集まり、若手会などは月に1回から2回、自主的に集まって勉強会を行う予定です。

■ 園ができたときには、1号児と2号児を区別しないほうが融合していくのではないかと思いきなり一緒のクラスという生活を始めました。すると、2号児のほうで動揺してしまい、生活が安定しなかったということを反省して、3年目ぐらいから1号児と2号児を、初めのスタートは分けて、それぞれが安定したときに融合させるように方向転換をしました。

今の生活の仕方は、9月頃までは部屋を半分に仕切って、1号児は1号児の拠点、2号児は2号児の拠点ということで、進級してきた2号児については、そのまま3歳からの生活ができるようにできるだけ担任も替わらずに置いています。1号児については集団の生活ができるように、自分たちで必要なことをやっていけるようなことを大事にしながら遊

ぶということを進めていく生活をして、だんだんに1号児と2号児が合わさったグルーピングをして、一緒に生活をしていくようにしています。

それを1年間やると、5歳になったときには、1号児も2号児も変わりがなく、ほとんどのことを同じようなスピードで吸収して、活動に向かっていくことができるようになるということを、積み上げてきた中では思います。

また1号児と2号児がいることで、1日の流れを変化させていくというようなところは、まだこれからいろいろ課題を出して考えていかなきゃいけないと思っています。

□ 在園する時間がこれだけ多様というのは、本当に苦労が大きいですね。

■ 自分たちで作っていく遊びという点では、場づくりをする場所がないことを課題に思っています。

【幼稚園について説明】

■ 幼稚園教育の5領域は、健康、人間関係、環境、言葉、表現です。この事例1つを取っても、例えば、目標に向かって努力するというのがあります。やり遂げた喜びを味わい、味わうことによって、目標に向かって、また努力するというスパイラルが回っていきます。環境や人間関係など総合的に学んで、そこで得たものを次に回していくことが、幼児教育の一つだと思っています。

東京都教育庁からの資料ですが、土台がない知識教育は不安定になって、小学校3年生で知識は消えます。脳の3層構造、真ん中の生きる脳です。幼児教育はこの感じる脳、情動というのを大事に思っていて、ここを育てていくことが肝要です。その外側にある記憶する脳や思考する脳の辺りを行ったり来たり、気持ち、情動のやる気とか意欲とか耐えるとかいうのが行ったり来たりしながら育てていて、この感情と知識をつなげる仕事が幼児教育だと思います。

幼児教育スタートプランというのを、文科省が提案を始めていますけれど、まさにこのかけ橋をどうするか、また10の姿や好奇心、粘り強さ、自己調整、協同性、生活習慣みたいなところを本当に大事に思っているのも、こういう検討会議で耕せたらいいというふうに思っています。

□ 運動会という一つの取組に、3歳、4歳、5歳の発達の違いが見えて、それを大事にした先生方の配慮があるということがよく理解できました。

■ 生きる力というのは、身近な大人とか仲間たちから見て、まねて、自分も楽しむみたいなどころがあると思いました。

年長さんの目標を立てて考えるのは、小学校にもつながってきて、言語とか思考の部分で仲間との共有や主体性というところが、少し遊びと違った面で、自分たちで、遊びでもどういう遊びをするかというので、みんなで話し合っ、何かやるというものもありますが、共通の目標とかをクラスのみなどと共有するというのが、何か主体性を発揮したり、考えたり、小学校にもつながりそうな土台になっていると感じました。

■ 年長さんであれば、みんなで考えることが大好きで、自分が考えたり、みんなで決めたものは守る。規範意識もみんなで考えて、みんなで決めて、みんなでやり遂げるということの原体験はとても大事だと思っています。

■ それぞれの子が考えて、自分なりに発言して、それをみんなで認め合う経験というのは大事な気がします。

小学校になると科目が始まって、例えば、「これが分かる人」って聞くと手が挙がらなくなったりすることがあると思いますが、このように幼稚園とか保育園のうちから自分で考えて、それをみんなで認めてあげて、共有して、ほかの子がどんなこと考えているのか気づくような活動は大事な気がしました。

■ 小学校の学習指導要領も変わっており、目標設定をして、自分たちでどう解決していくかというところに重点を置いていて、学びに向かう力、人間性というところが出てきたことで、自己調整をどうかけていくかというところ、それをしっかり子どもたちが経験しないと、それは自分たちが社会に出ていったときに調整しながら、自分たちの達成するもの、何を目的に解決していくのかということができません。その問題解決をしっかりとやっていくというのが、今回の学習指導要領、特に資質・能力ベースでの改訂の中で言われていることですが、幼児期の終わりまでに身につけなければならない10の姿は目標ではないし、達成を目指すものでもありません。しかし義務教育になると、目標と内容が設定されるというところがあるので、その思考が働いてしまいます。活動の中で目標や内容をいかにどう達成させていくかという発想を変えなくてはいけないと改めて感じました。1年生はゼロからのスタートじゃないというところで、さらにもう一步進んだ今回の学習指導要領の改訂、それぞれ幼稚園、保育園の指針や教育要領の改訂の趣旨を踏まえていくということが大事だと感じました。

□ 安定して自己を発揮していて、そして、それを認め合える集団づくりというのが、と

でも大事だと思いました。

■ 「みんなの中で自分のことを言ってもいい」というような経験を重ねていくことが、クラスの中で一人一人が認め合えるところにつながっていくということを改めて感じました。

■ ただ1人だけで自分が楽しいということではなく、1人だと思っているけど1人ではないというところは、それが生きるために必要なことなのかなと思いながら伺っていました。

■ 今日の遊びはこんなふうにしたとか、遊んでいるうちに目的がこんなふうが変わっていくとか、みんなでアイデアを出し合って遊びを変えていく、継続していくというようなこと、それ自体が目的を持ってやり遂げていくということだと思うので、そういう意味で、好きな遊び、自分たちでやっていく遊びということを大事に考えていくということだと思います。

■ お互い認め合うというのが、本当に自分を発揮する上で大事な環境だと思いました。

□ 今日は具体的なお話があったので、漠然と出していた言葉に裏付けがついたように思います。では、これで会議を閉じます。ありがとうございました。

閉 会